

The End of Japanese Golden Age?

ピーター・タスカ 日本の時代は 終わったか

*For Japan, the bubble provided an important
lesson in self-knowledge.*

Peter Tassak



講談社

The End of Japanese Golden Age?

ピーター・タスカ
日本の時代は
終わったか

*For Japan, the bubble provided an important
lesson in self-knowledge.*

A handwritten signature in cursive script, reading "Peter Tasska", written over a horizontal line.

●著者紹介

ピーター・タスカ Peter Tasker

1955年生まれ。1977年オックスフォード大学ベリオール・カレッジ卒業。現在クライノート・ベンソン証券会社ストラテジスト。独特の歴史観と国際的視点に基づく新鮮な分析が大きな評価を受けており、「タスカ・レポート」は今日日本の金融界に大きな影響を与えている。日本経済新聞社調査による第4回マーケット・アナリスト人気ランキング1位。滞日10年以上になり、NEWSWEEK誌のコラムニストとしても活躍。著書に「インサイド ジャパン」「メルトダウン——日米同時崩壊」がある。

日本の時代は終わったか

1992年6月12日 第1刷発行

1992年9月22日 第8刷発行

定価はカバーに表示してあります。

著者 ピーター・タスカ

発行者 野間佐和子

発行所 株式会社講談社

東京都文京区音羽二丁目12-21 郵便番号112-01

電話 編集部 03-5395-3523

販売部 03-5395-3622

製作部 03-5395-3615

印刷所 豊国印刷株式会社

製本所 大口製本印刷株式会社



©Peter Tasker 1992, Printed in Japan

落丁本・乱丁本は、小社書籍製作部あてにお送りください。送料小社負担にてお取り替えいたします。なお、この本についてのお問い合わせは学芸図書第三出版部あてにお願いいたします。

ISBN4-06-205946-0 (学三)

インサイド ジャパン

Inside JAPAN

ピーター・タスカー

笹野洋子[訳]

「この上なく創造的な模倣者であり、勤勉きわまりない快楽主義者、おそろしく好色だが紳士・淑女ぶり、非常に礼儀正しいがひどく残酷で、しかもむやみと親切な人々だ。金持ちだが富の蓄えはなく、自信たっぷりだが途方に暮れた状態で、史上まれにみるはなばなしいカムバックを果たしたばかりである。」——われわれ日本人は、ひょっとすると歪んだコッケイな社会をつくってしまったのかもしれない。ピーター・タスカーの辛口ユーモア満載日本論！

* 定価1850円(本体1796円)講談社刊 *

日本の時代は終わったか*目次

プロローグ

ワンス・アポン・ア・タイム

ネーミングはよかったが

未来が輝いて見えた時代

生活水準を上げない経済ほど大きなバブルはない

製造業賛美は経済の潮流に逆行する

第一章 バブル帝国の崩壊

金融危機は強い国で起こる

NTT株とチューリップ

カフェで熱狂した人々

バブルカンパニー

暴落したのに自信が揺らがない

「他人に売るため」に買われた資産

正気を取り戻すのはゆっくりと一人ずつ

第二章 資産デフレの時代

歴史上前例のない現象

日本の未来への非現実的な期待

だれも批判しなかった超低金利

市場は管理できない

「資産売却計画進まず」

群れ意識がバブルの心理的土壌

資産デフレはインフレ策では解決しない

イギリス版土地神話

マネーサプライと資産デフレ

幻のバブルと戦う日銀

「マインド」だけで克服できる状況ではない
実物経済への重大な影響

不況は経済のバランスを回復させる

歴史上経験したことのないデフレ・スパイラル

最大のダメージを受ける大企業

企業神話の崩壊

日本型モデルはもう日本には合わない

もつと働けば乗り切れる時代は終わった

まったく新しい混乱

第三章 富の自己崩壊

軟着陸は難しい

問題が深刻であればあるほど隠す銀行

O & Y崩壊の真実

破産が急増する

アントルブルナー受難の環境

ピークから半値は避けられない土地・マンション

力尽きるまで続くプロセス

第四章 日本企業の未来

経営者は企業のオーナーではない

資本集約型で必ず勝つ理由

企業にペナルティーを科さなかった株式市場

白か黒かの世界

社長は株主に「ユア・カンパニー」と言えるか

リターンを重視しない企業は売られる

企業を正確に評価する株式市場

人手不足はどこにあるのか

節約の時代

高コストからの亡命

東京の時代が終わる

第五章 低成長時代の生き方

人間の過剰在庫

会社はサラリーマンに誇りを持ってきたか

「職場の花」はもういない

女性がおかれた初めての試練

セックスをすると死ぬ時代

結婚ほど合理的な選択はない

税制の致命的欠陥

第六章 消費パターンの逆転

普通の人が湯水のように金を使った八〇年代

サル型消費

ケチになれるか富を崩壊させるかの選択

見栄とお世辞ほど高くつくものはない

最大の創造性は自分の内部から生まれる付加価値

第七章 政治のつまずき

183

市場を混乱させた官僚主義

短期的な金融政策のツケ

反近代化イコール反日

リーダー不在でやっていけた政治では乗り切れない

第八章 選別投資の時代

197

投資活動は二〇～三〇年ベース

不動産投資にリターンはない

九〇年代の注目銘柄

日本がつくる次の上昇トレンドは日本株ではない
きびしい選別の時代

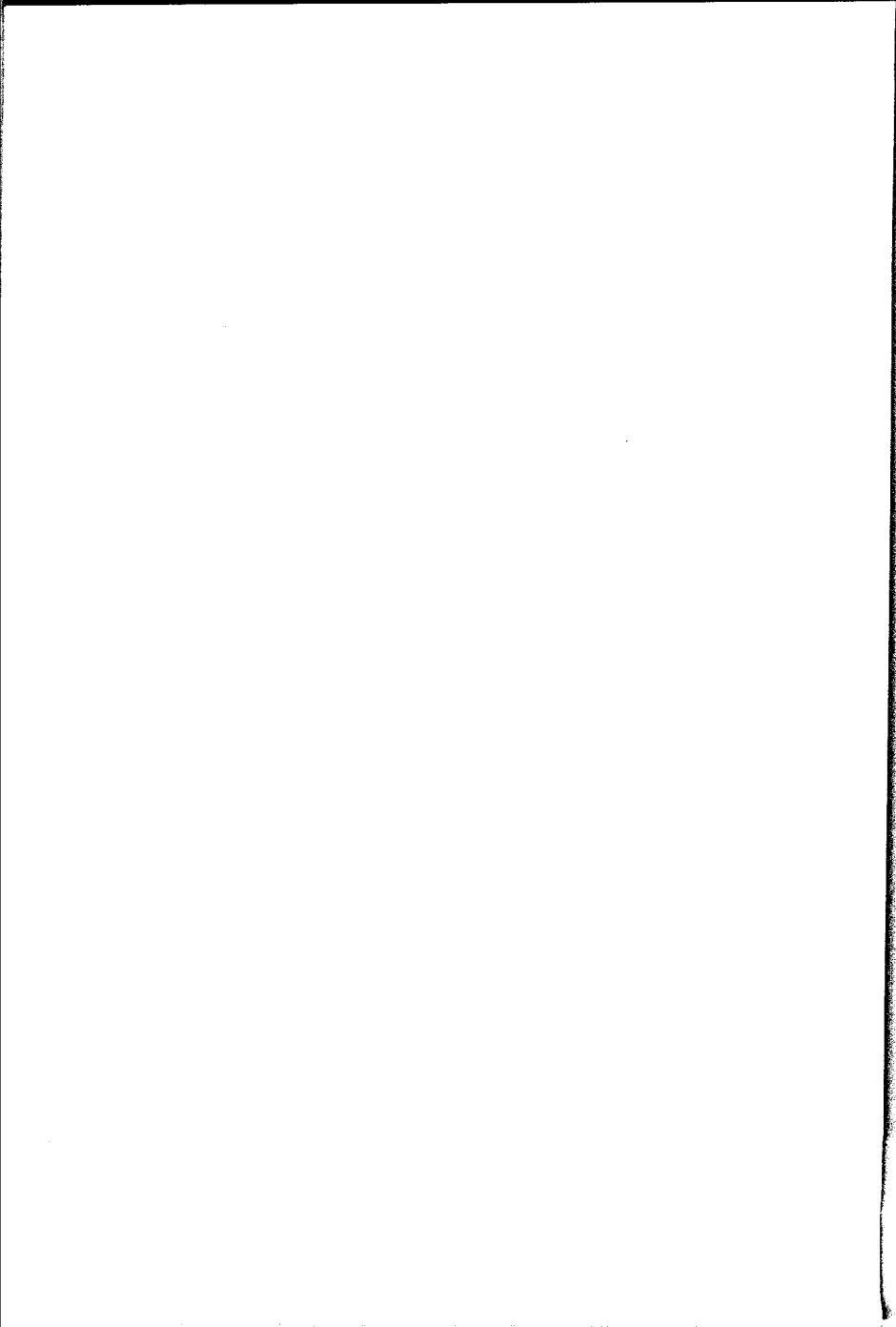
エピソード*大国の試練

日本はバブルの崩壊を乗り切れるか

日本の時代は終わったか

装幀 * 川上成夫

プロローグ



ワンス・アポン・ア・タイム

一九八八年、年号が昭和から平成に変わる直前、日本は、国中をあげて自粛ムードにあった。全国津々浦々あらゆるところにおいてである。各地で祭事が中止され、有名芸能人が結婚披露宴を延期した。また、プロ野球の優勝祝賀会からは恒例のビールかけがなくなった。そして、テレビの深夜番組からばかりか、週刊誌など雑誌のグラビアからも一切のヌード写真が消えた。この自粛ムードは年が押しせまるとともに一段と高まり、なにやら日本全体が未知のものの到来に怯え、ひっそりと息をひそめているかのようだった。

そんな重苦しい空気の中、ただ一つ、粛とした流れに逆らうかのように、日本全国を派手に席卷している経済現象があった。株式相場の上昇だ。その勢いは、もうだれの力をも止められないほどになっていた。

私の近所の証券会社のある支店は、その勢いに乗じて増改築され、随所に高級家具が配置され